

ここがポイント！授業づくり

今回のテーマ：「授業づくりと学級づくり」

授業づくりと学級づくりは両輪であると言われてます。学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善を進める上でも、学級経営の充実は欠かせません。

学校生活の中で一番長い時間は授業です。授業づくりと学級づくりを切り離して考えるのではなく、授業の中で学級づくりをするという視点をもつことが重要です。

授業づくり

- ◆ 目標と指導と評価の一体化
- ◆ 主体的・対話的で深い学び

学級づくり

- ◆ 授業におけるルールの定着
- ◆ 互いに認め合える人間関係

児童生徒に資質・能力を育成する授業

2学期が始まるまでに1学期の授業づくりと学級づくりについて振り返り、2学期の方針や具体的な方策を考えておきましょう。

自分の学級にはどんなルールが必要か、人間関係を築くためにどんな取組や声掛けをするかなど、具体的に考えるとよいですね。

学級づくりにおいても授業づくりにおいても「**生徒指導の三機能**」を意識することが大切です。

生徒指導の三機能

- 1 児童生徒に自己存在感を与えること
- 2 共感的な人間関係を育成すること
- 3 自己決定の場を与え自己の可能性の開発を援助すること

～生徒指導提要 平成22年3月 文部科学省～

京都府丹後教育局
学校教育担当
令和2年8月発行
授業力UP研修3

この資料は、教職経験1～6年目（ステージ1）の先生方を主な対象として作成しています。他のステージの先生方にとっても、御自身の日々の授業実践を振り返っていただくきっかけとなれば幸いです。



学習規律やルールは、どうしたら定着するのでしょうか？

授業におけるルールを児童生徒と**共有する**ということが大切です。

先生がルールを決めて「守りなさい」と一方的に示すのではなく、児童生徒に「なぜそのルールが必要なのか」を考えさせたり、児童生徒といっしょにルールを決めたりするなどして、**児童生徒自身がルールを守る必要性に気付く**ことが重要です。

みんなが気持ちよく過ごすために、ルールが必要であるということを理解させましょう。

また、ルールを守れないことばかりに目を向けず、**ルールを守れたことを評価する**ということも大切です。評価することで定着を図ることができます。



児童生徒が自分の思いや意見が出し合える学級にするには、どうしたらいいのでしょうか？

児童生徒が意見を言ったときに、それを受け止める学級の雰囲気はありますか？意見を言っても否定されたり、間違えたときに笑われたりすると、自由に意見が言えなくなります。**安心感がないと、自分の思いは出しにくい**ものです。

教師の姿勢を児童生徒は見ています。まずは「なるほど」と**教師が児童生徒の意見を受け止める**ということが大切です。児童生徒が教師の求める答えを探するような授業になっていませんか？多様な意見を受け止めながら授業を展開しましょう。また、間違いを生かすということも大切です。間違えることが許される雰囲気を、先生方がつくっていきましょう。